

## フィリピン RCEP批准書を寄託 6月に発効

フィリピン国営通信社(PNA) 2023年4月28日

マニラ発 外務省(DFA)は、フィリピンが地域的な包括的経済連携協定(RCEP)の批准書をインドネシアに本部を置く東南アジア諸国連合(ASEAN)に寄託したと金曜日(28日)に発表した。

フィリピンのジェイセリン・キンタナASEAN常駐代表は、協定発効の最終段階として、4月27日にASEANのカオ・キム・ホルン事務総長に批准書を手渡した。

フィリピン政府のASEAN代表部は、協定は同国で6月2日に発効するとしている。

キンタナ常駐代表は批准書を寄託するに当たり、「フィリピンのRCEPへの参加は、産業の競争力を高めるとともに、貿易を開放するための政府の既存の支援対策を同協定で定められた措置で補完できることから、特に重要である」と述べた。

RCEPは、ASEANとその6つのFTA(自由貿易協定)パートナー(オーストラリア、中国、インド、日本、韓国、ニュージーランド)によって2012年11月にカンボジアで正式に交渉が開始され、2020年に署名された。

フィリピン上院は2023年2月に協定を批准し、合意手続きの完了は署名国の中でミャンマーを除いて最後となった。

貿易産業省は以前、RCEPの下に集積されたより広範な地域において、多くのフィリピン製品が関税と原産地規則の面で市場アクセスの強化を獲得すると発表した。主な該当品目は、マグロ缶詰、ココナッツウォーター\*1、コーヒー、フルーツカクテル\*2、生鮮パイナップル及びドリアン\*1、点火用配線セット、革製品、自転車等である。

執筆者: ジョイス・アン・L・ロカモラ

訳注: フィリピン産に対する日本の輸入関税率は\*1: 元々無税、\*2: 形状等により元々無税またはRCEPより低率

## 台湾 輸入冷凍ベリーにA型肝炎ウイルス

Taiwan News 2023年4月28日

台北発(台湾ニュース) - 複数の報道は金曜日(4月28日)、チリから輸入され、コストコのスーパーマーケットで販売されていた袋入り冷凍ベリーから食品医薬品局(FDA)がA型肝炎ウイルスを検出したと伝えている。

17,000kg以上の商品が、それぞれ1.81kg入りの袋ですでに一般に販売された。スーパーマーケット業者は製品を棚から撤去し、203袋、合計367.43kgのベリーを処分した。

ラジオ台湾インターナショナル(RTI)は、FDAがカークランドシグネチャ社製のベリー3種ブレンド(ラズベリー、ブルーベリー、ブラックベリー)を5袋検査し、そのうちの1袋がウイルスに陽性であったと報じた。

消費者は、もし60日以内に症状が現れた場合はすぐに医療機関を受診するよう警告されており、突然の発熱、疲労感や体調不良、食欲不振、または嘔吐がないか自身で監視する必要がある。CNA(中央通訊社)によると、感染した場合、黄疸や目と皮膚の黄変が現れることもある。

医療関係者によると、水、貝類や甲殻類、生野菜、ベリー類等の果物にはウイルスが付着している可能性がある。

今年4月27日までに、台湾の中での30人のA型肝炎の症例と2人の渡航者の感染が記録されている。衛生福利部(保健福祉省)によると、昨年は86人の感染が報告されたが、その前の年の同時期の感染者数は今年と同程度であった。

執筆者: マシュー・ストロング